

本誌ゆかりの文化人 今坂柳二氏 逝去さる

去る8月28日、狭山市の文化人アスリートであった今坂柳二氏が逝去されました。今坂氏は、当連合会の設立当初より狭山市俳句連盟の理事として活躍され、「桜まつり」や「狭山市民芸術祭」での俳句作品展示や、「青少年文化体験フェスタ」での子ども達への俳句体験指導などで、当連合会の事業活動に大いに貢献されました。特に、創立15周年記念の市民芸術祭においては、企画公演「ことばとリズム in 狭山」の脚本を担当し、この狭山の歴史と民話をたどる舞台公演に、加盟団体の仲間と共に自らも出演されるなど、大いに活躍されました。

また、ライフワークとされていた「昔ばなしの採話」の成果やご自身の戦争体験などを、本誌「文化のいぶき」に全18話寄稿いただきました。これらは「まだある狭山のおはなし ちょっくらきいてくんろ」シリーズとして2015年から5年間に亘って連載されました。

故人のこれまでのご功労に敬意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

狭山市文化団体連合会 会長 小川 忠史

いまさか りゅうじ 民話収集家・俳人・ランナー 今坂柳二

1930(昭和5)年～2021(令和3)年



2019年撮影

1. 経歴・狭山市との関わり

水富村笹井に誕生。農業今坂権三郎の次男。成績優秀で「書」も優れており、今も水富小学校に残されている。15歳の時、1945(昭和20)年5月25日夜中、笹井空襲に遭う。25歳頃、俳句に出会う。日々農業をする中で十七文字に思いを表現することに夢中になる。地域に残る昔話を訪ね廻り、採話して残す。

元狭山市文化財保護審議会委員長・元狭山市史編纂委員

2. 主な業績

- ① 地域の民話 220 話を採話し、この地につながるご先祖の足跡として「龍じいの昔話」10冊にまとめた。土地の伝承話はその土地の言葉で語ることにこだわる。
- ② 俳句同好会「ささぶね」を結成。公民館等、俳句サークルの指導にあたる。句集9冊・俳句関連誌10冊を刊行。「俳句研究社」第2回50句競作入選。「つばさ」代表。「野火」同人。
- ③ 笹井の戦災史『覚書狭山戦災史』『狭山戦災の頃をしのぶ夕べ』『俳句集狭山戦災日』をまとめる。焼夷弾投下により一瞬にして60軒の家々が消滅し、15人の死者を出す惨劇を目の当たりにする。その経験を将来に残すため、当時のことを語り合う会を立ち上げる。会は10年間続けられ、話されたことを『狭山戦災の頃をしのぶ夕べ』にまとめる。
- ④ ランナーとしても広く知られる。57歳で体力作りのためマラソンを始める。年齢が若くなかったのであちこちで評判になり止められなくなる。青梅マラソンは連続24回完走、宮古島100キロRUN・北京～万里の長城RUN・日本山岳耐久レース完走、しまなみ街道100キロRUN等、数々のレースに参加。特に、京都三条大橋～東京日本橋500キロRUNの9日間は印象に残る。東京マラソンに83歳で出場、笹井での練習風景や当日の様子などテレビで放映される。
- ⑤ 他の著書(共著・編集)：『縄文通信』『狭山市現代資料編』『万歳じいさんの馬車鉄夜ばなし』
第20回狭山市民芸術祭「狭山にゆかりのある文化人紹介」より インタビュー：小川 豊子

編集後記

★新型コロナウイルスも沈静に向かい、公民館も開始。各教室も活動が再開されましたが、文化祭での舞台発表がなく熱が入らない。第6波が来ない中での芸術祭や桜まつりを期待したい。私は民謡で出演予定ですが、マスク着用での出演は御免被りたいです。

★本誌「文化のいぶき」のレイアウトを担当いただいていたボランティアの鈴木克身さんが、前号までで引退されました。高齢にも関わらず、見やすく読みやすい誌面作りをされ、私も、その都度何回もお伺いしました。ご苦労様でした。

(高沢正夫)